

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2024年 6月 21日	
所属部局・学年	野生動物研究センター・修士1年
氏名	大野円花

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
日本・日本モンキーセンター
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
動物園科学実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
2024年6月14日 ~ 2024年6月16日 (3日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
日本モンキーセンター
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
博物館の役割、種の保全ために重要な機関としての動物園、および動物園動物について理解を深めるため、日本モンキーセンターにて動物園科学実習に参加した。
【スケジュール】 6/14：日本モンキーセンターの歴史や意義などについての講義、動物園内の散策 6/15：多種間比較研究、解体見学、標本実習、 6/16：飼育実習、来園者観察実習、動物園教育、博物館学レクチャー
【成果】 日本モンキーセンターの歴史などの講義では、日本モンキーセンターは1956年に霊長類の研究施設として開設されたこと、霊長類の飼育種数、飼育頭数共に世界屈指の動物園であることなどを学んだ。また、日本モンキーセンターでは開設された当初から死んだ個体の骨格標本がすべて保管されていることから、研究施設としても重要であることを学んだ。 動物園内の散策では、主に展示方法や展示されている霊長類についての解説をしていただいた。らせん状の雲梯などの人工物や、たくさん木を植えて森のような環境をつくって、野生での霊長類の動きを来館者に見てもらおう工夫を学んだ。特に私は、「リスザルの島」が印象に残った。鳴き声や葉が揺れる音を頼りにリスザルを探すなど、森の中に入ってリスザルを観察しているような体験ができてとても楽しかった。さらに、スローロリスの見学も印象に残っている。とても愛らしい見た目で見懐こい様子を見て「これは飼いたくなってしまうのも分かるな」と発言したところ、「ペットとしての輸入は禁止だけど、飼いたくなるという気持ちを理解することによって密輸問題を考えることも大切だ」というお言葉をいただいた。 多種間比較実習で私のチームでは、生息地と耳の形態、鳴く頻度を比較し、発表した。種によって耳の形態も鳴く頻度も異なり、面白かった。 最終日の飼育実習では、アジア館でお世話になった。最初に個体の性格や集団との関わり方などを教わった。その後、飼育小屋の清掃と夕食の用意を体験させていただいた。小屋数も夕食の量も多く、本実習では3人で手分けして行った。しかし、通常は同じ仕事量を飼育員さんがすべて1で行っているという、とても驚いた。夕食の準備の際に、バナナなど傷んでいる野菜や果物が多いことを不思議に思ったところ、飼育員さんから「お金がないからこういった傷んだものしか用意してあげることができない」と伺った。このような動物園の経済的な問題は、飼育動物のためにも解決しなければならないと感じた。さらに、てんかんの薬などを飼育動物が飲んでくれるようにバナナなどに隠すなど飼育員さんの愛のこもった工夫も拝見した。また、飼育員さんから、「研究者のおかげで動物園は動物を飼育することができているが、研究者も動物園のおかげで動物の研究をすることができているから、常にお互い良い関係を築くことが大切だ」というお話も伺った。このことは今後常に考えて研究をしようと思った。また、飼育員さん方のご厚意で日曜サロンでの西村剛先生の講義を受講した。サルとヒトを比較して、声帯などののどの作りや声帯の振るわせ方を見ていくことからことばの起源について知ろうというものとても面白かった。 最終日の午後には、来園者の観察を行った。私はアビシニアコロブスの観察者の観察を行った。1時間ほど観察を行ったのだが、私が観察する前から私が観察を終えるまでずっとアビシニアコロブスの観察を

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

行っている方や、すでに個体識別ができている方が多かった。これは、SNS でアビシニアコロブスについての発信に力を入れていたことや、赤ちゃんが生まれたことがきっかけだろうと考えた。アヌビスヒヒなどでは、15 秒しか観察しない人もいたということだった。種によって観察時間が異なることが面白いと感じた。

動物園教育や博物館レクチャーでは、動物園の存在意義について考えていかなければいけないなと思った。学びが多くとても充実した時間を過ごすことができた3日間だった。



図 1: 整理した骨格標本



図 2: アビシニアコロブスと赤ちゃん

6. その他 (特記事項など)

山本先生、日本モンキーセンターの皆様には3日間お世話になりました。心より感謝申し上げます。